

令和7年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 14	公益目的事業 19
主査名	秋山孝正 建設コンサルタント顧問 ・ 井ノ口弘昭 関西大学准教授	
研究テーマ	ウェルビーイング向上を目指した都市交通政策に関する研究	
ウェルビーイング（Well-Being：WB）は、心も身体も社会的にも満たされた状態を表し、大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」と共通しており、企業経営などでも取り入れられつつある。本プロジェクトでは、WB 向上を目指した交通システムを検討する。具体的なテーマを以下に示す。 ①ウェルビーイングを踏まえたカーボンニュートラル都市交通の考察 カーボンニュートラル都市交通政策について、WB の側面から考察を行う。たとえば、自動運転車の交通事故リスクの減少を与え、EV 増加は脱炭素化の促進から人々の健康を与える。従来から提案されている持続可能な都市交通政策を整理するとともに、WB との関係を明確化する。これより、持続可能性と WB の両立を目指した未来型都市交通政策を提案する。 ②ウェルビーイング向上を目指した交通機関の連携 公共交通は、アクセス・イグレス交通を含めたシームレスな移動を確保することが重要になる。近年、端末交通手段として利用可能な電動キックボード等の車両・シェアリングシステム等が登場しており、これらが WB 向上に与える影響を検討する。 ③地方圏におけるウェルビーイングを実現する交通サービス 自動車依存度が高い地方圏において、自動車運転のできない交通弱者の WB も実現するための交通サービスを検討する。具体的には、拠点を連結する公共交通軸におけるサービス水準の向上だけでなく、デマンド型乗合交通などによる拠点へのアクセスのためのサービス水準の適切な組み合わせを検討する。 ④ウェルビーイング向上を目指した地域公共交通政策 日本の都市交通は、民間ビジネスとして高品質の交通サービスを提供してきたが、収益性の低い地方都市圏では、コストカットによる採算確保に重点が置かれ、地域住民の WB を損ねかねない状況にある。そこで、地方都市圏における WB を向上させる地域公共交通政策について、欧州の事例等も踏まえ検討を行う。 ⑤都市・交通政策によるウェルビーイング向上の効果計測 WB の向上には、脱自動車による健康増進とともに、食の充実も重要な要素になる。しかし、健康食品産業振興のための都市政策などは依然として実行されていない。ここでは、脱自動車型の都市交通システムによる WB 向上効果とともに、山梨フードバレー構想による食と農の充実に関わる都市政策とそのための交通政策実施による WB 向上効果の計測を行う。		